

とちぎで農業する人を募集します

就農準備校 とちぎ 農業未来塾

申込
受付期間

令和7(2025)年12月1日(月)～
令和8(2026)年1月30日(金)必着

令和8年度
研修生
募集

あなたの農業がここから始まる

◆農業で夢をかなえたい人 ◆独立して農業を始めたい人 ◆農業を実践的に学びたい人

就農準備基礎研修

①木曜日コース 研修曜日：木曜日

②土曜日コース 研修曜日：土曜日

研修期間：4～1月(30日)

募集人員：各40名 受講料：15,000円

農業経営や栽培技術の基本的内容を中心とした講義、
実習、現地視察等

就農準備専門研修Ⅰコース

研修曜日：月・水・金曜日 研修期間：4～3月(100日)

募集人員：60名 いちご：20名 施設野菜：15名
露地野菜：15名 果樹：10名

受講料：50,000円

就農準備専門研修Ⅱコース(実践研修)

研修曜日：月・水・金曜日の専門研修Ⅰコースと、
火・木曜日の指導農業者による現地実習

研修期間：4～3月(180日)

募集人員：Ⅰの範囲内で5名程度

受講料：90,000円

いちご・施設野菜・露地野菜・果樹の農業経営・栽培技術の
専門的内容に関する講義、実習、現地視察等



栃木県農業大学校

令和8年度研修生募集のご案内

Uターン、Iターンなどにより、栃木県内で農業経営を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを学べる研修の受講者を募集します。

受講要件

新たに栃木県内で本格的な農業経営を始めたいと考えている方。(家庭菜園や趣味の農業志向者は対象外です。)

受講申込の方法

◆受講申込みに必要な書類等

- ☐ 受講申込書：様式1
 - ☐ 就農計画書：様式2
 - ☐ 返信用封筒：2通（定形封筒長3、宛名・住所を記入し、必ず110円切手を貼ってください。）
- ※返信用封筒は、面談通知と受講決定通知に使用します。

◆提出先

〒321-3233 宇都宮市上籠谷町1145-1 栃木県農業大学校 未来塾担当

◆受付期間（郵送・持参）

令和7(2025)年12月1日(月)～令和8(2026)年1月30日(金) 必着

（本校に直接持参する場合は、8:30～17:00、土日、祝日及び令和7(2025)年12月29日(月)～令和8(2026)年1月2日(金)を除く）※ファクシミリ、Eメールでの受付はいたしません。

受講者の決定

受講者は、受講申込書等の関係書類、面談によって決定します。

◆関係書類により要件に合った方は、面談日程等を通知します。申込状況によっては、日程の変更もあります。

- | | | |
|-----------------|-------------|--------------------|
| ◆面 談 日：就農準備基礎研修 | 木曜日コース | 令和8(2026)年2月19日(木) |
| 同上 | 土曜日コース | 令和8(2026)年2月14日(土) |
| 就農準備専門研修 | I コース | 令和8(2026)年2月17日(火) |
| 同上 | IIコース（実践研修） | 令和8(2026)年2月13日(金) |

◆受講決定：令和8(2026)年3月上旬に本人宛てに郵送します。

なお、専門研修IIコースについては、現地実習先が決定してから、3月末までに受講の可否を通知します。

※電話等による問い合わせには応じません。



コースの構成

研修コース		研修内容	研修期間 (日数)	研修曜日	募集人員	受講料
1 就農準備 基礎研修	①木曜日コース	農業経営や栽培技術の基本的内容を 中心とした講義、実 習、現地視察等	4～1月 (30日)	木曜日	40名	15,000円
	②土曜日コース			土曜日	40名	
2 就農準備 専門研修	I コース	いちご・施設野菜・ 露地野菜・果樹の農 業経営・栽培技術 の専門的内容に関 する講義、実習、現 地視察等	4～3月 (100日)	月・水・金	60名 (いちご：20名 施設野菜：15名 露地野菜：15名 果 樹：10名) ※Ⅱは、上記の範囲 内で5名程度	50,000円
	Ⅱ コース (実践研修)		4～3月 (180日)	月・水・金 (Iコース共通) ＋ 火・木 (現地農家実習)		90,000円

※研修時間は原則として9:00～16:00です。

※研修日の他に、圃場・作物管理のための登校日があります。

※就農準備基礎研修の木曜日コース、土曜日コースは同じ内容です。
どちらでも受講可能な場合は、受講者数に応じて調整します。

※複数コースの同時受講はできません。

※受講料の他、テキスト代として10,000円程度の費用が必要です。



カリキュラム

各コースとも講義と実習で構成され、

- 作物を作るために必要な基礎的知識（土壌肥料、病虫害防除等）
- 農業経営に必要な基礎的知識（農業簿記、経営管理、各種農業制度等）
- 農作物を販売するために必要な基礎的知識（マーケティング、農業の6次産業化等）

について研修します。

また、就農準備専門研修は基礎的研修に加え、作物を限定した、より専門的な知識の習得、実習を行います。

新規就農者育成総合対策(就農準備資金)への対応

「専門研修Ⅱコース(実践研修)」受講者で、一定の要件を満たす方は、新規就農者育成総合対策(就農準備資金)の申請が可能です。なお、当該資金の交付を受けるためには、別途審査がありますので御留意ください。詳細は、個別に御相談ください。

新規就農者育成総合対策とは、次世代を担う農業者を目指す人(就農予定時の年齢が原則50歳未満)に、就農前の研修を支援する資金(就農準備資金)と就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始資金)を交付する国の事業です。この内、就農準備資金は、栃木県が認める研修機関で研修を行う就農希望者で、一定の要件を満たす場合、最長2年、原則最大150万円／年を交付するものです。

※事業内容は令和7年度のものであり、今後、事業内容等が変更となる可能性があります。

とちぎ農業未来塾修了生からのメッセージ

専門研修Iコース・施設野菜
(R5年度修了)

石川丈泰さん

基礎研修・土曜日コース
(R6年度修了)

石川和美さん



私は鹿沼市のにら研修制度を令和6年3月に修了、4月より就農し、にらの栽培を夫婦で始めました。

未来塾の存在は、鹿沼市の研修制度に応募するまで知りませんでした。正直、未来塾に通うまでは研修の一環で週3日通えばいいだろう程度でしたが、今では学びの時間でしかなかったと強く感じています。私はいわゆる非農家出身、母方の実家は米と梨農家でありましたが、学生の頃長期休暇の時に手伝いに行く程度の経験しか農業に関りはありませんでした。ただその時の記憶が鮮明に残っており、40歳を過ぎ新しい学びにチャレンジしたいと考えた時に農業を選択し、今に至りました。

知識がほぼゼロであった私にとって、未来塾での時間はすべてが新鮮でした。目にするもの、聞く話、最初は理解できないこともありましたが、徐々に慣れてくる中で理解が深まり、農業界で生きていく上で必要なことを学んでいきました。この経験から、妻にも未来塾を薦め、翌年基礎コースに通ってもらい、最低限基本的な知識を身につけてもらいました。

受講したことで、お互い何でも話せる仲間もでき、今でも色々なアドバイスを仲間からもらい、日々刺激を受けています。就農してから、正直試験しかありませんが、仲間達に助けられています。

現在はにらの栽培、収穫で日々精一杯ですが、今後は「稼ぐ」をテーマに、夫婦で日々これまで以上に、にらと向き合っていく所存です。

皆さんも未来塾で、大きな一歩を踏み出してみてください。

専門研修IIコース・露地野菜
(R6年度修了)

小島一泰さん



私の実家は、代々水稻栽培と露地野菜を中心とした専業農家をしています。

正直言って農業なんてダサいし大変だし汚れる、良いイメージは無く継ぐ気持ちは全くと言っていい程ありませんでした。

高校を卒業し、直ぐに関西で板前として就職し働いてる内に色々な食材と出会い、その先に生産者さんがおられて、野菜にしる魚にしる色々な想いだったり苦労もあり作れると感じ、改めて実家の農業の偉大さを感じるタイミングもありました。

農業は実家の農作業を手伝う程度しかやったことが無かったので、栃木農業大学校に未来塾と言うコースがあったので応募しました。

IIコースなので、農家さんの家でも研修を積ませていただきました。未来塾では基礎的な知識を教えてくださいましたほか、他のコースの人達とも楽しく交流もでき、今では良い相談相手だったり、お互いの作業を手伝ったり出来る仲間となっています。未来塾に通えたことが自分の中で宝物になっています。

これからは、同期の仲間たちとカッコよくて儲かる農業を目指して栃木県を盛り上げていきたいです。

専門研修Iコース・いちご
(R6年度修了)

大山晃征さん



私は40歳で会社員を辞め、今年就農したばかりのいちご農家一年生です。当初、農業のことなど知らない素人の私がお世話になったのは「就農準備校 とちぎ農業未来塾」でした。

未来塾は1年間を通して実際にいちごを育て、いちごに触れて勉強します。栽培のスケジュール感を捉え、管理観察を通していちごの生育を見ることは、これまで植物を育てた経験がなかった私にとっては本当に充実した時間でした。

座学においても、どの講義も興味深いものでした。様々な分野の専門家が先生としていらっしゃいます。農業を生業にするにあたって必要な基礎を教えてくださいました。

このようにして、何とか就農一年目を迎えています。そして、ここでふと考えてみると、未来塾で得られた大切なものがもう一つあることに気付きました。

それは「人とのつながり」です。同じ机を並べて勉強した仲間は、修了したあとでも「大丈夫か?」とお互いに声をかけあい、様々な場面で助け合っています。それは私の大きな支えとなってきています。また、未来塾の先生方も同じです。「質問いつでも待ってますよ」「いつでも遊びに来てください」と優しく声をかけてくださいます。農業は誰かの手を借りることがとても大きな力になります。そのありがたみを知ったのもこの未来塾でした。

いま就農を考えているみなさんもきっとこの未来塾で良いつながりを見つけれれると思います。そして農業でみなさんとながれることを楽しみにしています。

基礎研修・木曜日コース
(R6年度修了)

小林泰之さん



未来塾、特に基礎コースは農業のイロハを学ぶには非常に良い場所だと思います。

皆さんは何を目的に農業を始めようと思われていますか?「農業が好きだから」「普通のサラリーマンに疲れたから」「自分で作った野菜を食べてみたいから」様々な理由があると思います。

私と一緒に基礎コースで学んだ方々も十人十色で同じ立場や目的で来ている人は誰一人いませんでした。農業経営においても同じです。環境も人的リソースも経営理念も人によって異なるわけですから、全く同じものはないでしょう。

ですから、自分にとって最適な農業経営とは何なのか探るとき、他の誰かを参考にはできても完全にコピーすることはできません。それを目指して自らの頭で考え実践していくことが求められるはずなんです。

私自身もまだまだ道半ばであり、もがき苦しんでいる最中なので、あまり偉そうなことは言えませんが、少なくとも未来塾はそれを考え、実践する材料を提供してくれます。それを生かすも殺すも自分次第です。

いろいろ語らせていただきましたが、未来塾は単純に通っていて楽しいので普通におススメです(笑)。せっかくだったら楽しく充実した農業経営を目指して頑張りましょう!

問い合わせ先

栃木県農業大学校 未来塾担当

〒321-3233 宇都宮市上籠谷町1145-1

電話 028-667-4944

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/>



令和8年度就農準備校「とちぎ農業未来塾」受講申込書

令和 年 月 日

顔写真を貼付
(4 × 3cm 程度)

栃木県農業大学校長 様

ふりがな
氏 名

私は「とちぎ農業未来塾」の研修を受講したいので、関係書類を添えて申込みます。

1 受講コース及び連絡先等

希望 コース 【 】の中から 一つ○で囲む	・就農準備基礎研修 【 木曜日コース ・ 土曜日コース ・ どちらでも可 】				
	・就農準備専門研修	I コース 【 いちご ・ 施設野菜 ・ 露地野菜 ・ 果樹 】			
		II コース (実践研修) 【 いちご ・ 施設野菜 ・ 露地野菜 ・ 果樹 】			
住所等	郵便番号	—			
	住所 (建物名・番号まで記載)	県 市・町			
	電話番号				
	携帯電話番号				
	メールアドレス	@			
生年月日	西暦 年 月 日 (歳)	職業	現在 (申込時)		
最終学歴	☐ (農業系学校の卒業者等は ☒)		令和 8 年 4 月 (予定)		

※就農準備基礎研修は希望するコースを○で囲んでください。どちらでも受講可能な場合は、受講者数に応じて調整します。
※就農準備専門研修はI又は、IIおよび専攻名を○で囲んでください。
※就農準備専門研修IIコース(実践研修)受講者のうち、新規就農者育成総合対策(就農準備資金)の要件を満たしている者は同事業への申請が可能ですが、事業の採択には別途審査があります。なお、同事業については国の事業のため、今後、事業内容等が変更となる可能性があります。

2 受講を希望する理由

3 就農に対する家族の意向

① 同意を得ている ② 同意を得ていない

4 農業経験

① 全くない ② 家庭菜園程度の経験あり ③ 兼業農家で時々実践 ④ 専業農家で実践
⑤ 農業研修の経験あり (研修名： 期間：)

5 その他 (健康上不安なことなどがあったら御記入願います。)

とちぎ農業未来塾の研修及び就農支援に係る「個人情報の取扱い」について

栃木県農業大学校は、受講申込書及び就農計画書の内容については、個人情報の保護に関する法律 (平成 15 年法律第 57 号) 等に基づき適正に管理するとともに、研修及び就農支援に資するため必要に応じて市町村及び関係機関等へ提供する場合があります。

上記「個人情報の取扱い」に同意します。 氏名 _____

就 農 計 画 書

氏名

1 就農予定時期 西暦 年 月 (※既に就農している者は就農した年)

2 就農予定地 (又は希望地) 市・町

3 家族構成 (※同居および農業経営に参画する者)

①続柄 (年齢)、②続柄 (年齢)、③続柄 (年齢)

④続柄 (年齢)、⑤続柄 (年齢)、⑥続柄 (年齢)

4 農業経営等の構想 (取組作物、販売等の考え方など)

経営の規模等

区分	主な作物	面積 (㎡)	目標所得金額 (万円)	労働力
現 状				本人以外 名
				(具体的な続柄等)
	計			
就農時				本人以外 名
				(具体的な続柄等)
	計			
就 農 5 年後				本人以外 名
				(具体的な続柄等)
	計			

5 農地・施設等の取得状況

区分	取得済	今後取得見込み・希望	方法
農地	・所在地 (市・町)	・所在地 (市・町)	・借 地
	・面 積 水 田 (㎡)	・面 積 水 田 (㎡)	・購 入 自己資金
	畑 (㎡)	畑 (㎡)	各種融資
	その他 (㎡)	その他 (㎡)	・その他
施設 機械	・ハウス等 (㎡)	・ハウス等 (㎡)	・借りる
	・機械類 ()	・機械類 ()	・購 入 自己資金
			各種融資
			・その他

* 10a (1,000㎡) ÷ 1 反

6 当面の生活資金の確保 (※農業収入を得られるまでの数年間の生活資金)

有 ・ 無